

## 永沢寺の亀割峠（永沢寺）

永沢寺に永沢寺という大きな寺があります。この寺に、通幻禪師というえらいお尚さんがおられました。

お尚さんは、毎日毎日座禅堂で、丑の刻から寅の刻（午前二時から午前四時）まで座禅をしておられました。

あるとき、その座禅堂の前へ怪女が現れました。そしてお尚さんに解脱の法を授かり、もとの竜となって天空へ帰っていきました。

そのときの竜にまつわるお話です。

竜が本堂の前庭で、土煙砂煙をもうもうと巻き上げ、大地をけつて舞い上がりうとしています。

「お尚さん、ありがとう。心と身の苦しみから解き放つていただいたご恩は決して忘れません。お元気で、さようなら。」

お寺の上空を三回まわって、天空へと……。

ところが、どうしたことか。いつものように飛べないのです。

「はてな。おかしい。どうしたんだ。まだ、わたしの心が解き放たれていないのだろうか。」

飛ぶ勢いは、ますます弱々しくなっていきました。竜が、自分の体を確かめようと見回したところ、尾の先に何やら黒い影が付いているのでした。

「やーっ。あれは？」

なんと、大きな亀が「がぶりっ」とかみついているではありませんか。うまく飛べないのも無理はありません。

竜はその亀をふりほどこうと、しっぽを縦にふったり、横にふったり。ところが、亀はびくともしません。今度は、しっぽをぐるぐると回してみました。それでも亀は、ぎゅうっとかみついたままでした。

竜は、知恵をしぼって、大声で呼びかけました。

「亀さん、亀さん。そのままでは落ちてしまうよ。かんだままでは疲れるでしょう。ここらで、あーんとかみなおしたら、楽になりますよ。」

実は、亀はふりまわされて、ふらふらになっていたのです。そこで口を大きく開けて、

「あーん。」

とかみなおそうとした瞬間、上空から峠の大岩めがけて、

まっさかさま！

「がーん。」

と、大きな音がなりひびきました。亀の甲は、割れてしまったのです。

その後、この時を「亀割峠」と呼ぶようになったそう。

それからというもの、亀の甲は、かたくなったとき。

わっはっは。

